

こんにちは！Bブロックの奥山です。

今回はゆいでも実践している「**意思決定支援**」について一部ではありますが、ご紹介させていただければと思います！

意思決定支援とは？

自ら意思を決定することに困難を抱える障害者が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができるように、可能な限り本人が自ら意思決定できるように支援し、本人の意思の確認や意思及び選好を推定し、支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が困難な場合には、最後の手段として本人の最善の利益を検討するために事業者の職員が行う支援の行為及び仕組みをいう。

意思決定支援の5つのポイント



①信頼関係の構築

本人を知ること、本人を知るための関係づくりやコミュニケーションの取り方を知ること。ゆいでは日常生活のご様子から強みとなる特性や配慮が必要な特性を分析し、ご本人を理解しようとする姿勢、寄り添うような関わりを持っています。

②人的・物的環境整備

周囲の人の態度や関係、物理的環境や時間帯によって、本人の意思決定は影響を受けます。否定しないで聞かや、ただそばにいるという関わり方もあるそうです。

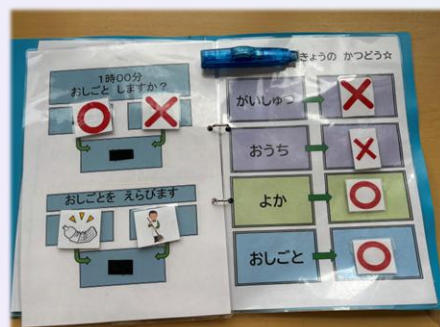


③意思の形成

適切な情報、環境、認識の下で意思が形成されていることを支援すること。知らないこと、経験したことのないことは選べません。右上の写真は入所されている方がグループホームの暮らしを体験している様子です。意思を形成するために重要な体験となりました。

④意思の表明

形成された意思を適切に表明、表出することへの支援です。右の写真は意思を相手に伝えるための専用のツールです。専用のツールがあることで安心して自分の気持ちを相手に伝えることができます。



⑤意思の実現

本人の意思を日常生活・社会生活に反映すること。本人の意思と本人以外の人の意思が相反してしまい、本人の意思だけを尊重できない場合でも、だれかが我慢するのではなく、みんなの意思が尊重される選択肢はないか諦めずに考えることが大切です。